

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 講師

氏名 一戸登夢

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

私の教育の責任範囲は、愛玩動物の整形外科を専門とする獣医師として、獣医学科および獣医保健看護学科における臨床教育および動物看護教育を担うことである。獣医保健看護学科では、「動物外科看護学Ⅰ」「動物内科看護学Ⅰ・Ⅱ」を担当し、疾病の病態理解に基づいた周術期管理やリハビリテーションを含む実践的な看護教育を行っている。また、獣医学科では「小動物臨床実習」「小動物病院実習」ならびに大学院の獣医外科学特別演習を通じ、整形外科診療および研究成果を教育に反映させるとともに、実習環境の整備や指導体制の充実に責任を持って取り組んでいる。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	153
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	
動物看護学概論	獣医保健看護学科	必修	1	80
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必修	1	80
動物内科看護学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	72
動物内科看護学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	72
動物外科看護学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	72
獣医外科学特別演習Ⅰ	獣医学専攻		1	
獣医外科学特別演習Ⅱ	獣医学専攻		2	
獣医外科学特別演習Ⅲ	獣医学専攻		3	

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医臨床看護学は、疾患を有する動物の看護や、獣医師の指示の下で愛玩動物看護師が適切に判断・行動するための、実践的かつ応用的な学問領域である。臨床現場では、常に一つの正解が存在するとは限らず、症例の状態や飼育環境、飼い主の意向などを踏まえた柔軟な対応が求められる。そのため私は、基礎知識の確実な習得を前提とした上で、知識を基に自ら考え、最適解を導き出す思考力を育成することを教育の柱としている。

また、近年重視されるチーム獣医療においては、獣医師と愛玩動物看護師が相互に専門性を理解し、情報を共有しながら協働する姿勢が不可欠である。学生には、自身の判断や考えを言語化し、他者に伝える力を養うことを重視した教育アプローチを行っている。現役の小動物臨床獣医師である実務家教員として、日常診療で得られた具体的な症例や経験を教育に反映させ、知識と経験を結び付けることで、獣医療の現場で主体的に行動し、即戦力として活躍できる愛玩動物看護師の育成を目標としている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

小動物獣医療の現場では、画一的な正解が存在することは少なく、動物の病態、飼育環境、飼い主の意向など、複数の要素を踏まえた判断が求められる。そのため、教育においても、即座に答えを与えるのではなく、学生自身が考え、最適解に辿り着く過程を重視することが重要であると考えている。私は、教育の場において「自ら考え、判断する力」を養うことを基本的な教育方針としている。

具体的には、本学動物医療センターでの診療や実習において、学生や研修獣医師、愛玩動物看護師から疑問を投げかけられた際、初めから正解を提示するのではなく、思考の手がかりとなる視点や考え方を示し、自ら答えに辿り着けるよう導く対話を心がけている。このようなプロセスを繰り返すことで、知識を単なる情報としてではなく、実践に活用できる力として定着させることを目指している。

また、学生が主体的に考えるためには、安心して質問や意見を述べることのできる学習環境が不可欠である。そのため、学生や研修獣医師、愛玩動物看護師を一人の専門職として尊重し、否定から入らない丁寧なコミュニケーションを重視している。発言に対しては肯定的に受け止めた上で改善点を示すことで、思考を深める姿勢を育てたいと考えている。

さらに、自らの考えが実際の診療に反映される経験は、学修意欲を高める重要な要素である。学生や研修獣医師、愛玩動物看護師には、自身の判断や意見を言語化して説明する機会を設け、妥当性の高いものについては、日常診療の中で積極的に取り入れている。現役の小動物臨床獣医師である実務家教員として、臨床経験に基づく具体的な事例を教育に活用し、知識・思考・実践を結び付けることで、獣医療の現場で主体的に行動できる人材の育成を目指している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

日常の診療活動において、診療中や終了後にその日に対応した症例を題材としたディスカッションの時間を設け、学生や研修獣医師に自らの考えや疑問点を発言してもらい取組を行っている。症例の評価や治療方針について意見を求め、対話を通じて思考を深めることを重視している。また、講義科目においてもテーマを設定し、事前学習やレポート作成、発表を通じて学生が主体的に考え、表現する機会を取り入れることで、能動的な学修を促進している。

(2) ICTの教育活用

有

教育へのICT活用として、CTデータを基に3Dプリンターで作成した骨モデルを用い、個々の症例における骨形態や病態を立体的に理解できるよう工夫している。また、学生の症例発表に際しては、画像や動画などのデジタル資料を共有し、視覚的に説明しやすい環境を整備している。さらに、大人数講義ではリアルタイムで回答可能なアンケートシステムを活用し、学生全員が参加できる双方向型の授業を実践することで、理解度の把握と主体的な学修の促進を図っている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義および実習では、抽象的になりやすい内容を具体的に理解できるよう、画像資料や3Dプリントモデルを活用し、視覚的・直感的な理解を促す工夫を行っている。また、大人数の授業において発言に抵抗を感じる学生にも参加機会を確保するため、リアルタイムで回答可能なアンケート機能を取り入れ、全員が主体的に関われる授業設計を実践している。

(2) 学生の理解度の把握

B

学生の理解度把握のため、日々の診療や実習の中で重要なポイントについて随時質問を行い、口頭での回答や議論を通じて理解状況を確認している。また、講義科目においては、特に重要と考える内容について小テストや定期試験で問うことで、知識の定着度を客観的に評価している。これらを通じて、学生一人ひとりの理解度に応じた指導につなげるよう努めている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

学生の自学自習を促すため、診療や講義の内容に関連した参考図書や資料を提示し、必要に応じて該当箇所を示すことで、主体的な学修につなげている。また、診療や実習後には疑問点の有無を積極的に確認し、学生自身が課題を認識した上で調べ直す機会を設けている。これにより、日常的な復習や知識の定着を促している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学生や研修獣医師からの質問には、対面やメールを用いて可能な限り迅速に対応するよう努めている。その際、単に答えを示すのではなく、考え方の整理や視点の提示を行い、自ら理解を深められるよう配慮している。また、質問しやすい雰囲気づくりを意識し、否定的な対応を避けることで、学生が安心して疑問を共有できる関係構築を心がけている。

(5) 双方向授業への工夫

A

日常の診療活動において、診療中や終了後にその日に対応した症例を題材としたディスカッションの時間を設けている。学生や研修獣医師に考えや疑問点を発言してもらい、それに対して意見交換を行うことで、双方向の対話を重視した指導を実践している。これにより、主体的に考え、臨床判断を深める機会の創出を図っている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

新設の学科であり、アンケートが今年度初めて行われているため、割愛する

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

新設の学科であり、アンケートが今年度初めて行われているため、割愛する

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

新設の学科であり、アンケートが今年度初めて行われているため、割愛する

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

実際の症例画像や動画、3Dプリントモデルを活用し、直感的に理解しやすい授業を行うことで、知識の定着と成績向上を図ってきた。また、臨床現場を意識した問いかけにより思考力を養うとともに、基礎科目と臨床科目を結び付けた指導を行っている。今後は理解度に応じた指導を意識し、学修成果のさらなる向上を目指す。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

これらの取組を通じて、学生からは「理解しやすい」「考える機会が増えた」といった肯定的な評価が得られている。また、研修獣医師や実習現場の指導者からも、学生の理解度や主体的な姿勢が向上しているとのフィードバックが寄せられている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

指導力向上を目的として、学内外のFD研修に可能な限りリアルタイムで参加している。参加できない場合も録画を視聴し、教育改善に活用している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期的な目標として、獣医保健看護学科の教育内容や実習指導体制をさらに充実させ、学生が主体的に学び、実践力を高められる教育環境の整備に取り組む。長期的には、本学卒業生の愛玩動物看護師国家試験合格率を、獣医学科が併設される他大学と比較して高い水準で維持・向上させることを目標とする。また、本学動物医療センターが卒業生にとって就職先として魅力ある職場となるよう、教育と臨床が連動した人材育成と環境整備を進めていきたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス